

事例調査に基づく長崎「巡礼の道」への活用方策の検討

長崎大学工学部 学生会員○Wang jiayi

長崎大学大学院工学研究科 学生会員 島袋 大夢 正会員 石橋 知也

1. はじめに

1.1 研究の背景と目的

「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」は、長崎と天草地方において日本の伝統的宗教や一般社会と共生しながら信仰を続けた潜伏キリシタンの信仰継続にかかわる伝統の証となる遺産群であり、潜伏キリシタン独特の文化伝統の証拠であることが評価されている。上記をふまえ、2021年に世界文化遺産や関連する遺産を辿る長崎「巡礼の道」が創設された。さらに、2023年に当該遺産の登録5周年に向けてイベントの開催が想定され、長崎県下の該当遺産全体として連携した取り組みが求められている。

本研究では、長崎県にある世界遺産の保全・活用をめぐる課題とニーズを明らかにし、地域資源を活かした事例に着目するとともに、その知見と全体的傾向を分析することで、長崎「巡礼の道」への活用方策を考察することを目的としている。

1.2 研究の進め方

本研究は以下の手順で進める。1)世界遺産の活用に関する既往研究の知見を整理し、分析視点を抽出する。2)オンラインにより前述した分析視点をキーワードとして事例を検索する。3)手順2)において集めた事例をリスト化し、全体の傾向について分析する。4)さらに事例をピックアップして考察する。5)以上の分析結果をもとに「巡礼の道」活用の可能性について考察する。

2. 分析視点の抽出

既往研究において、國竹²⁾の研究では、世界遺産を守り将来へ伝えるためには、技術的な保護手法だけではなく、人々の心の中にその意義を伝える事が必要であり、地域にある資源を基に、教育を通して世界遺産の価値を次世代に伝える必要性について議論している。ファティマ³⁾は、世界遺産の保全と活用において、コミュニティ主導が実現する過程と住民の意識変化を考察し、世界遺産保全における地域連携の位置づけについて議論している。ユネスコが、世界

遺産保全にあたって、持続的な保全を可能とする地域社会の取り組みの重要性を強調しているうえ、世界遺産教育プロジェクトを掲げている¹⁾。田中⁴⁾は、「まち歩き」を基盤とした学習プログラムの項目について考察し、小学生を対象に地域に対する気づきの機会を提供するまち歩きワークショップを実施した。これにより「まち歩き」は子供たちが地域に対する愛着の醸成に効果的と示唆している。

これらの知見を踏まえ、本研究では、「地域と学校が連携した教育プログラム」「世界遺産を活用した地域活動」「ガイドつきまち歩きプロジェクト」の3つの視点から事例を検索する。

3. 事例調査と考察

3.1 調査内容と結果

まず、前述した3つの分析視点を踏まえ、それぞれキーワードとして検索をかけると、「学校と地域が連携した教育プログラム」から22事例（これをAグループ）、「世界遺産を活用した地域活動」から15事例（これをBグループ）、「ガイドつきまち歩きプロジェクト」から27事例（これをCグループ）、合計64事例が抽出された。上述の64事例の実態を把握するために、本研究では便宜的に「ストーリー」「アプローチ」「担い手」「成果」の4項目について整理することにした。（一部事例を抜粋し表1に示す）

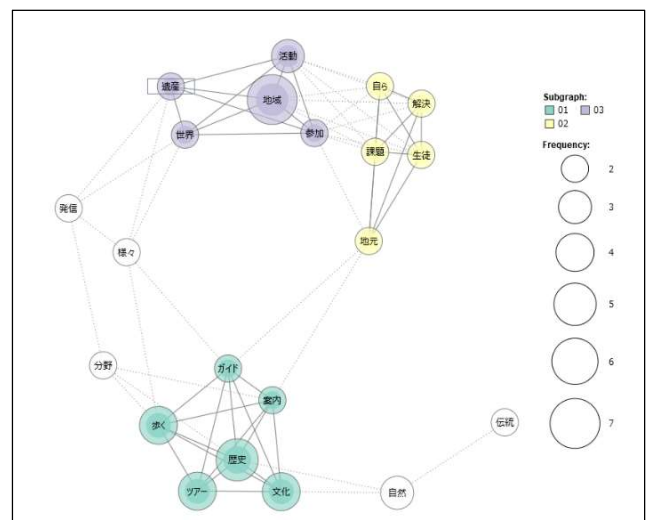


図1 事例の共起ネットワーク

3.2 全体に対する考察

表1 事例リスト

グループ	名称	ストーリー	アプローチ	担い手	成果
A	「ふるさと杉」を意識し、学校・地域・保護者が一体となった学校支援	環境保全活動と年間を通した農園活動に取り組み、収穫した農作物を料理して地元のイベントで振る舞う	学習イベント 地域課題解決 人材育成	地域住民 地元団体 学生	・教育活動を充実した ・学校と地域との関わりが深まった ・学校への関心が高まった ・人材の活用が促進された
A	井川町地域学校協働本部 「地域に根ざしたたくましい子どもの育成」	ふるさと教育を通して、井川町の自然や歴史、伝統文化等に触れることにより、ふるさとに関心をもつとともに、町の伝統を受け継ごうとする意欲を育てる	学習イベント 地域課題解決 人材育成	地域住民 地域団体 学生	・自然への関心が高まった ・地域との関わりが深まった ・人材の活用が促進された
A	広島県立大崎海星高等学校魅力化プロジェクト	①地域人材による出前講座の聴講や地域活動への参加を通して自分の特性や興味を知る②地元企業でのフィールドワークにより、地域の課題と解決策について勉強する③生徒自ら地域課題を発見し、解決策を提案する	学習イベント 地域課題解決 人材育成 商品開発・販売	地域住民 地元団体 地元企業 行政機関 学生 教育関係者	・志望生徒が増加した ・教育活動を充実した ・地域との関わりが深まった ・人材の活用が促進された ・新しい地域商品開発を促進した
B	明治日本の世界産業遺産 「世界遺産を見に行こう」 「世界遺産を知ろう」	製鉄所周辺に「産業」や「歴史」、「環境」分野の学習施設を設置し、フォトコンテストなど定期的に情報発信イベントを開催する	学習イベント 観光体験 情報発信	行政機関 地域住民	・世界遺産に関する情報を発信した ・世界遺産保全に対する意識が高まった ・参加者の多様なニーズに応えた
B	茅野市縄文プロジェクト	「北海道と北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録に向け、地域への発信と応援を行う	学習イベント 情報発信 商品開発・販売	行政機関 地域住民	・世界遺産に関する情報を発信した ・世界遺産保全に対する意識を高めた ・新しい商品の開発を促進した
B	世界遺産姫路城マラソン	市民参加型のマラソンであり、世界遺産姫路城をはじめとする名所旧跡、街並み、豊かな自然、地域の特色等、姫路を満喫させる	情報発信 魅力発見 商品開発・販売	地域住民 地元企業	・地域に関する情報を発信した ・参加者に多様な体験を提供した ・新しい商品の開発・販売を促進した
C	くまの体験計画	エコツアーリズムにより熊野古道の独特な自然・歴史・文化を守り伝える	散策体験 魅力発見	地域住民 地元企業	・地域の歴史・文化を発信した ・参加者に独特な体験を提供した
C	まいまい京都	各分野のスペシャリストが独自の視点で京都の歴史・文化について案内する	魅力発見 散策体験 商品開発・販売	地域住民 地元企業	・地元商品の販売を促進した ・観光客の多様なニーズに応えた ・地域に関する情報を発信した
C	長崎さるく	長崎市の歴史・文化まち歩き観光「長崎さるく」として、様々なガイドやまち歩き団体がまちあるきツアーを実施する	散策体験 魅力発見 商品開発・販売	地域住民 地域団体 地元企業	・地元商品の販売を促進した ・観光客の多様なニーズに応えた ・地域に関する情報を発信した

次に、事例の全体的な特徴を把握するために、KHコーダーを用いて集めた事例の情報について分析を行った。共起ネットワークでは、語と語が線で結ばれているかどうかに関連性の有無を表し、線の太さが関連の強さとして表現され、表示される円は大きいほど言葉の出現回数が多いことを表している。図1より、Aグループ(凡例02)に「生徒」「課題」「解決」「地域」、Bグループ(凡例03)に「遺産」「参加」、Cグループ(凡例01)に「ガイド」「文化」などの単語が頻繁に出て、強い関連性があることが分かる。

また、事例の特徴をもとに全体の傾向をより詳しく把握するために、項目間の関係について考察した。Aグループでは、地域課題解決を通して学校と地域の連携を強化するとともに、人材育成を図る事例、Bグループでは、世界遺産に関する情報発信や学習イベントを通して参加者の関心を高めることを目的とする事例、Cグループでは、散策体験により地域の魅力を参加者に伝える事例が大きな割合を占める。

3.3 個別に対する考察

3.2の分析を踏まえ、代表的な事例をピックアップし、詳しい考察を行い、「巡礼の道」への活用方策を

検討するために注目すべき点を抽出する。

4. 今後の展開

調査結果を踏まえ、世界遺産登録5周年に向けて、実態調査をもとに本研究の適用性を考察する。

参考文献

- 1) UNESCO World Heritage Convention : Concerning the Protection of the World Heritage, <https://whc.unesco.org/en/conventiontext/> (上記は2023年1月5日に確認)
- 2) 國竹真由美: 地域文化遺産に基づいた「世界遺産教育」の有効性, 熊本県宇城市における「伝統文化学習」の事例研究, 世界遺産学, No.5, pp.157-158, 2018
- 3) ティティンファティマ, 神吉紀世子: インドネシア・ボロブドゥール地方・チャンディレジョ村にみるコミュニティ主導型のグリーンツーリズムの実現プロセスに関する研究, 都市計画論文集, No.43-3, pp.517-522, 2008
- 4) 田中尚人, 堀尾和美: 小学校地域学習におけるシビックプライド涵養に関する実践的研究, 実践政策学, No.2, pp.107-113, 2016